

科学基礎論学会総会への編集委員会提案

本学会の欧文機関紙 *Annals of the Japan Association for Philosophy of Science* の刊行のために本学会が申請していた、日本学術振興会平成14年度科学研究費補助金が不採択となった。

2002年4月20日に開催された編集委員会では、この事実を重くみて、*Annals* のあり方について討議を行った。その結果、つぎのような方向で、*Annals* の充実を図ることが決定された。

1. 年2回発行という現在の刊行体制は、補助金がなくとも、しばらくは維持することが可能である。以前のような年1回発行に戻すよりは、現状を維持して内容を改善した方が今後の申請にも有利に働くと思われる以上、年2回発行という体制は維持する。
2. 投稿規程を改訂して、投稿資格を会員に限定することをやめて、広い範囲から投稿を募るようにするべきである。和文誌『科学基礎論研究』については、従来通り、投稿資格を会員に限定する。
3. 外国人レフェリーを増やすことも以前からの懸案であり、その点からも、前項の措置は必要である。
4. 欧文の質の向上を図る必要がある。査読者が欧文チェックを必要と判断した場合は、投稿者の責任で欧文チェックをしてもらうべきである。
5. 現在、編集委員単著の投稿原稿に関しては査読を行っていない(『科学基礎論研究』についても同様)が、こうした扱いは今後は廃止する。ただし、編集委員会からの依頼原稿である場合はこの限りではない。

以上の件は、編集委員会と同日に開催された理事会でも了承された。しかしながら、これらの事項のうち、2.は、本学会の欧文機関誌を会員以外にも広く開放するという趣旨のものであり、従来からのやり方を大きく変えるものである。評議員会で了承されたので、総会において審議のうえ決定したい。